

最近のオーラルケア商品と母親の意識に関する実態調査

米津卓郎、○田中千穂*、松原範宜*、藤田浩子、
児島泰子、薬師寺 仁

(東歯大・小児歯、*コンビ (株) 商品開発部)

【目的】小児、特に低年齢児を持つ母親のオーラルケアの実態やケアを行う上での悩みや不安事項などについては不明の点が多い。そこで今回我々は、某育児関連企業の協力のもとに、0歳から6歳までの小児を持つ母親を対象に、オーラルケアの実態やオーラルケア商品の使用状況に関するアンケートを行ったので、その結果を報告する。

【対象および方法】某育児関連企業の社外モニターの中から、一人目の小児を育児中であること、小児の年齢が5歳までであることを条件に母親を抽出し、児のオーラルケアに関わるアンケートを行った。その結果、819名の母親から有効回答数を得た。アンケート対象者における小児の年齢分布は表1に示す通りである。

表1. アンケート対象者の小児の年齢 (人)

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
214	295	197	72	27	14

調査内容は、①オーラルケアの具体的方法、②使用しているオーラルケア商品の種類、③オーラルケアを行う上での不安や悩みとその解決法であり、各調査項目について、選択形式、一部記述方式で回答させた。そして、得られた結果を児の年齢別に解析、考察した。

【結果】1) オーラルケアの方法について

児の年齢別にオーラルケアの方法をみると、0歳児の母親は、齶蝕原性細菌を伝播させないよう心がけているとする回答が54.5%と最も高率であり、次いでガーゼなどでの清拭が42.5%であった。1歳児過ぎの場合、いずれの年齢層においても、仕上げ磨きを行うとする回答が最も多く、次いで歯磨きをさせるという回答であった。特に、3歳児以降において、ほとんどの母親が後磨きを行っていた。また、定期的に歯科健診を受けさせるという回答や歯科医院でフッ化物塗布をしてもらうとする回答は児の年齢の増加と共に高率と

なっていた。

2) 使用経験のあるオーラルケア商品について

使用経験のある商品で多いものは、乳児用歯ブラシ(90.7%)、仕上げ用歯ブラシ(67.6%)、歯磨きガーゼ(36.1%)であった。歯磨き剤の使用率は約15%、フロスなど補助的清掃具の使用率は11%と比較的低率であった。一方、フッ化物含有プレーを使用した経験のある母親が22.7%、子供用むし歯予防タブレットを使用した母親が15.3%存在した。

3) オーラルケアを行う上での不安や悩みとそれらの解決法について

全ての母親についてみると、不安に感じる項目で最も多かったのは「磨き残しがあるように思う：61.2%」であり、次いで「子どもが嫌がって磨かせてくれない：48.8%」、「使用しているケア商品のフッ素の効果：26.7%」であった。小児の年齢別にみると、0歳児の場合は「いつからどのようなケアを行えばよいか：43.9%」とする回答が最も高率であった。また、1歳児の母親の約7割が、「子どもが嫌がって磨かせてくれない」と回答し、2～3歳児の母親の約3/4は「磨き残しがあるように思う」と回答していた。なお、「子どもが嫌がって磨かせてくれない」という回答は小児の年齢の増加に伴い顕著に減少していた。

疑問点や不安の解決法として最も多かったのは「友人・知り合いに相談する：42.5%」であり、次いで「歯科医師・歯科衛生士に相談する：38.5%」、「ネットで似たような悩みを抱える母親の書き込みやブログを見る：31.0%」、「保健士に相談する：25.8%」であった。

【考察】今回の調査結果から、最近の母親は、自ら子どもの口腔内の健康を維持、増進しようとする傾向にあると考えられた。しかしながら、小児の成長とともに、オーラルケアに関する悩みは変化していくこと、その不安や悩みは専門家に相談することなく、自ら解決している様相がかいま見えた。このような現状からすると、小児歯科に関わる我々は、母子保健に関わる様々な事業により一層介入し、正しい情報の提供や指導など、育児支援に積極的に取り組む必要性が示唆された。今後は歯磨きに関する調査結果や食生活に関する結果を加味してさらに解析する予定である。